

BCAO関西支部・勉強会

BCバックグラウンドWorking Groupご紹介



特定非営利活動法人
事業継続推進機構



Business Continuity Advancement Organization



2015年3月25日
BCバックグラウンドWG(BCBG)

はじめに・・・

■新WG(BCのバックグラウンド研究会)の発足要旨(2014年4月30日時点)

- ① WGの名称:BCのバックグラウンド研究WG(BCBG)
- ② 運営ルール
 - ・メンバーの参加条件として、楽しく豊かに話し合うことを心がける。
 - ・膝詰めを原則とし、資料配布は現場のみとする。
(議事録を含めて資料の外出しはしない出席メンバーのみ共有)
 - ・開催日程は、メンバーの都合を聞き適時開催。
 - ・関西支部会への報告は可能な範囲で行う。(出来るだけ協力する)
 - ・参加希望者は、BCAO会員に限り随時受付けする。
 - ・開催場所は、原則関西支部事務所
 - ・世話役(田中・伊藤)

メンバー構成と開催経過

【メンバー構成】

・田中実(WG主査)、柳父行二、萩原正五郎、梅田浩史、飯田清人、徳永智子、伊藤高信

【現在までの開催】

日時	場所	時間
1回:2014年5月 8日(木)	本町事務所	16:30~20:00
2回:2014年5月30日(木)	本町事務所	16:30~20:00
3回:2014年7月17日(木)	本町事務所	16:30~20:00
4回:2014年9月 4日(木)	本町事務所	17:00~19:00
5回:2014年10月3日(金)	本町事務所	17:00~19:00
6回:2014年12月4日(木)	本町事務所	17:00~19:00
7回:2015年1月30日(金)	本町事務所	17:00~20:00
8回:2015年3月 5日(木)	本町事務所	17:00~19:30

9回2015年4月 9日(木)本町事務所 17:00~19:00(次回予定)

協議(進行)方法

■3回目のWGまでは、午後4時半から午後の8時まで議論が行われ、時間短縮(2時間目標)を図る為に、事前の宿題提出によるファシリテーター進行へと切り替えた。

■進行ステップ

①毎回の事前の宿題の提出

①他のメンバーの宿題回答について、疑問に思ったこと(?マーク)及びこれは良いと思ったこと(!マーク)を各自3点ずつ挙げる。

注:各自の意見発表の段階では「意見を挟まない」ルールにする。

注:最初に各1分で、全員発表の後、各2分でもう一度発表する。

②全員で提示された(?マーク)と(!マーク)の項目につき、議論したい項目を3点選定する。

③この3点について、各項目30分ずつ話し合う

GOAL:

・お互いの共通認識づくり

・言葉の定義・前提条件の違い・立場の違い等の理解)

④ファシリテーターが、ホワイトボードに表記する内容を要領よくまとめられるように発言者は簡潔に要点を述べる。

現在までの議論テーマの変遷

【テーマについて】

- ① 当面のテーマ(2014年4月30日時点)
 - ・自損事故ベース(自損のみで顧客と競合に損害がない状態)のBCP
 - ・BCを俯瞰(全体をきちっと把握する)
 - ・代替戦略(復旧か代替かの判断)

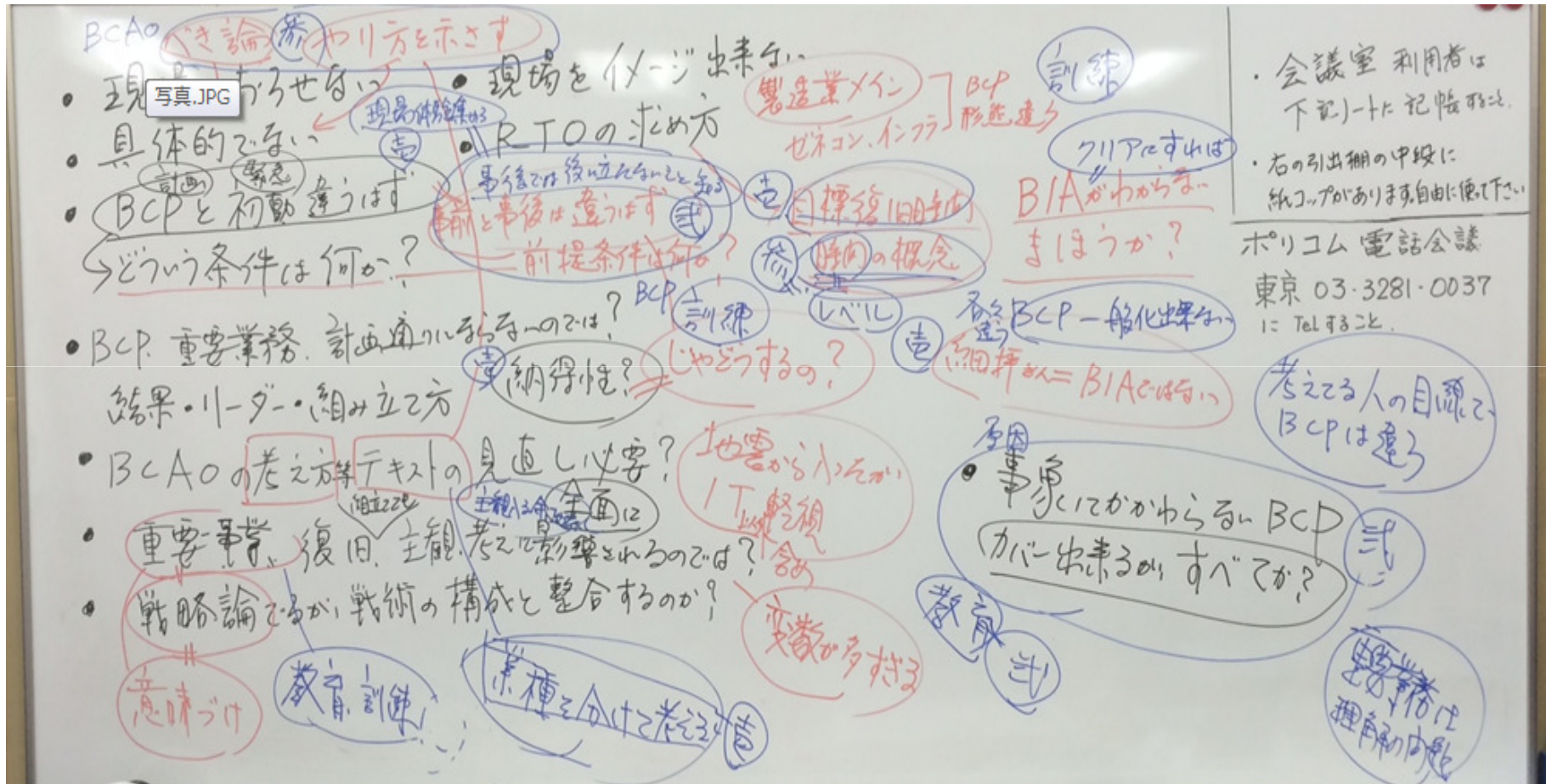
- ② 今後のテーマ(2014年4月30日時点)
 - ・BCバックグラウンドとしながら、話題は年間を通じて発展的に協議をしていく。
 - ・標準テキスト及びBCP策定全般の内容研究などを含めて行なう。

- ③ 中間結論(2014年7月17日時点)
 - ・BIAについては切り離して考えていく(東京BIA研究会を主体とする)
 - ・本WGにおいては、BCバックグラウンドに関する全体像をベースに考える
 - ・BIAはBCの中で重要な要素であり、代替戦略(現地復旧、代替の判断ポイント)は重要

- ④ 中間以降に論議されたテーマ
 - ・時間の概念の整理(許容中断時間、RTO等:事前と事後は違うはず)
 - ・重要事業(業務)の定義、重要事業(業務)選定、重要事業(業務)戦略・対策等取組み方
 - ・各種BCP策定ガイドラインの比較・研究
 - ・代替戦略
 - ・自損事故
 - ・企業防災に関する内部統制
 - ・復旧曲線

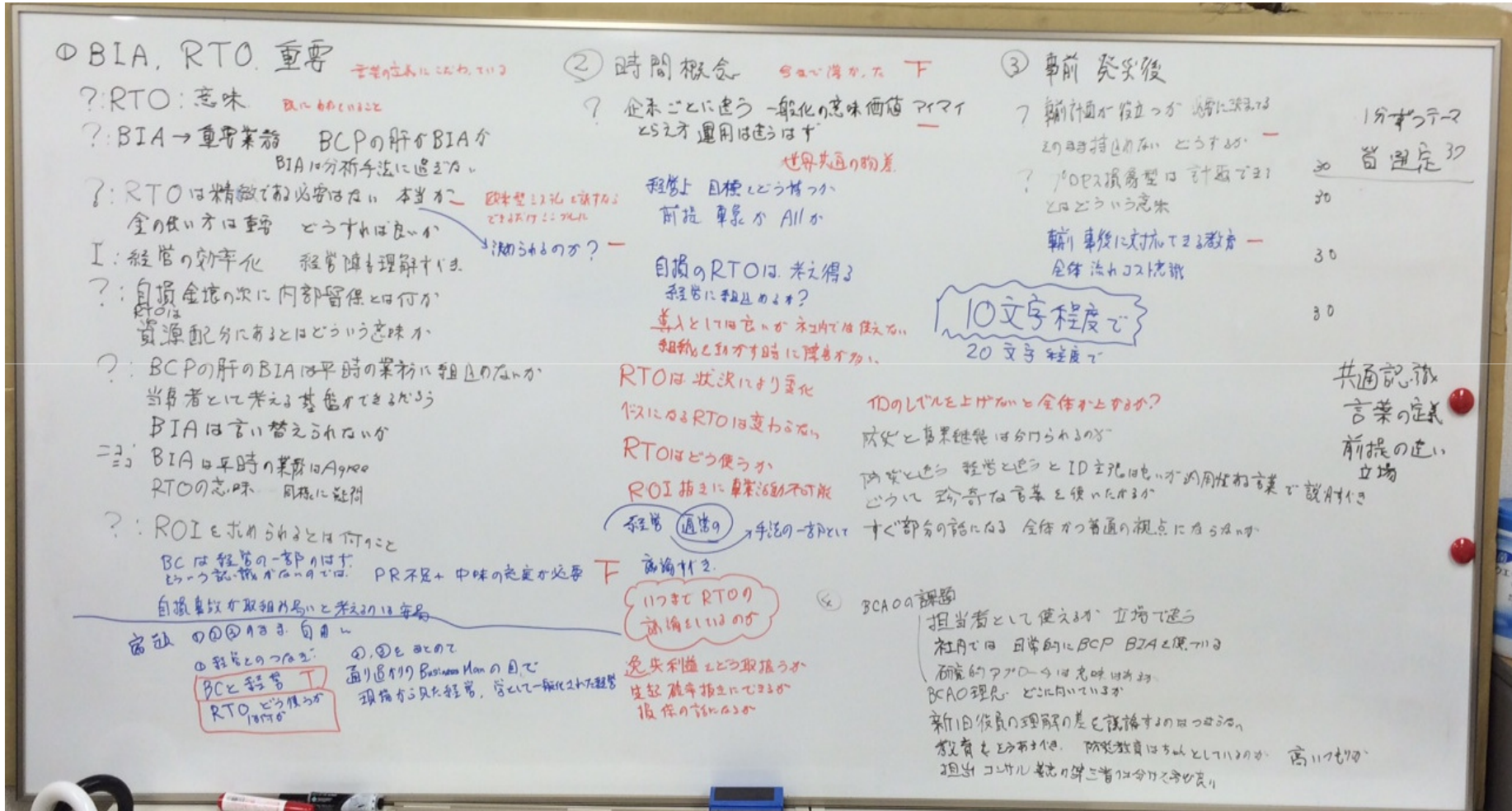
- ⑤ 現在の議論:「BCと経営、RTOとは」について議論を深め、BCBGとしての見解を整理。

実際の協議概要 (ホワイトボード写真)



2014.9.4 BCBG

実際の協議概要 (ホワイトボード写真)



2014.10.07 BCBG

実際の協議概要 (ホワイトボード写真)

経営者に BC とどう紹介するか

BC と経営に关して

内部統制 SOX法.

↓

BCM (ERM?)

製造業 ←

金融 ←

開業 ←

経営者の責務
ステークホルダー重視 (消費者等)
経営判断を立入

時間(準備)後

事業継続の視点、その上での経営管理が重要

マーケティング - BCM

BIA: 5年前と見ると急変

(行政) Coop: 業務継続計画 → 企業の復旧 BCP
T-1

SWOT分析

便宜の原則
報告を兼ね

BCP が中核に含める
は誰にどう (Stakeholder)
(問題意識を共有)

安全注意義務違反
危機管理能力
(教育、訓練)
自動化

RTO とは?

RTO は 経営環境変化以前の 変数 = 経営管理目標

RTO は 事前の対策計画

変数 ← 前提条件 (取組に先要請)
追加の経営資源

企業ごとに活用法を考へる

企業競争力アップ → 1) スケジュール力
(優位性) 2) コスト削減、品質の向上に寄与
(逆に) RTO 条件向上 → 1) スケジュール力アップ
(取組の条件向上)

自損金算 → 0 損益計算
→ 定額混同と利益率の低下
(固定比率の低下)
1/5 年々 - 2%
の前提

(方向性) (まわりの目的)

経営者に BCP を
どう説明するか
→ BCP の経営に対する
位置づけ

a) WG 発表
2/28 発表
b) X-10 の意見集約
c) 外部発表の予定

2/28 USJ
3/18 本部発表
3/25 WG 発表

2015.01.30 BCBG

実際の協議概要 (ホワイトボード写真)

3月25日 10分程度報告

- 本X社の学会発表
- 5月の学会発表に向けた

* 論文がWGの目的と一致する成果物か？

- ① X=1-1構成
開催日リスト
- ② 興味のあるテーマを抽出し、
↓ BIA → 成果物リスト
選択のテーマ
- ③ 進め方 (宿題) → 各担当の進捗/ポイント

5-1以降 WG発表

5月 学会発表 (大島) 5/29, 30

BCPの発動 事前事後

↑ 上の目標 → RTOに賛同がない。 (バックアップとリカバリとが有事)
業務改善目標 ← 確かな回復計画

(b) 時間軸: 事前から事後まで (種別) (QOP-BCP)
(c) 黒字化の自覚がたつた事業は対応 (公営) (企業)

議論の進め方 業態毎に考えるべき (CIP)
(サブライクエーから考える? CIPから) (重厚) (再業会社)

④ RTOは単独では存在せず
A) 前提条件の整備 (コンプライアンス/監査/...

ex. シンポジウム形式

- ① 発表
- ② (プレゼンテーション)
- * 司会者: WGのメンバー (excl. 氏)

現在までの合意点(3月25日時点)

- ▶ BCバックグラウンドWorking Groupは、全てのBCAO会員にOPEN参加を呼び掛けており、ご興味のある皆様には、オブザーバー参加、正式参加含め是非ご参加ください。
 - ・BCBGはBC全体の課題を俯瞰してスパイラルな習熟を進めたい。経営者を補佐する立場での課題抽出をはかる事を目指しているWG。
 - ・連絡先: 田中実、伊藤高信
- ▶ 元々BIAを研究していたWGだったが、BCバックグラウンドWGとなった時点で、BIAについては切り離して考えていく。
 - ・BIA研究会を主体とする。
 - ・本町事務所よりの遠隔参加(Skype&ポリコム)は、BCAO会員に参加を呼び掛ける。
- ▶ 学会の論文発表が当WGの目標ではなく、議論の中でのトピックの副産物とする。
 - ・第34回(2014年5月)地域安全学会研究発表会(春季)兵庫県立大学防災教育センター
テーマ:「有事発生時の事業継続対応 初動促進と迷走抑制に関する一考察」
発表者: 柳父行二 共著: 田中実, 伊藤高信, 梅田浩史, 徳永智子
 - ・次回: 柳父氏の学会発表(5月29日伊豆大島)
テーマ:「事後の修復判断促進と準備」
- ▶ RTOについては、中間結論(2014年7月17日時点)以降出て来たテーマであり、当WGの中心テーマではなく、BCの俯瞰という立ち位置において議論された。
 - ・RTOは単独では存在せず前提条件が必要で、RA・BIA・代替を含む事業継続戦略と同時に資金繰り、お客様残存状況、修復条件等がそろってRTOが決められる。
 - ・RTOは、戦略・対策が見えて確定するもので、企業固有の立ち位置があると考えられる。

ありがとうございました。